JR信越線火災原因は？－ 西日本防災システム

2013 07 26

2012年4月柏崎市のJR信越線で3両編成の普通電車の2両目の屋根から出火し、天井が燃えた事故で、運輸安全委員会は**7月26日**、パンタグラフの取り付け部に付着した波しぶきや風の塩分で屋根に電気が流れ、アーク放電が発生し出火した可能性が高いとする調査報告書をまとめたようです。

報告書によりますと、塩分は電解質で電気を流す性質があるため、JR東日本は、パンタ取り付け部を定期的に洗浄していたようです。ですが、当時は降雨量が少なく、塩分が残った状態で、強い風が吹き付け、波しぶきなどがかかり、高圧電流が車体に流れやすくなっていたと考えられるそうです。

JR東日本は事故後、新潟支社所属の同型車両のパンタ取り付け部に絶縁剤を塗って加工する再発防止策を取ったようです。

この事故は2012年4月4日午前9時55分頃発生しました。電車は青海川―鯨波間を強風による規制で時速約20キロで走行中、パンタ付近から炎が上がっているのが見つかり、運転士が急停車しました。消火器では消すことができず、消防隊が消火しました。この火災によるけがなどはなかったそうです。

塩害も侮れないですね！

西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
http://www.nbs119.co.jp/

弊社top pageへ